

## 第6章 専門学校生における所属学科と職業適性との関連

### 6-1 問題・目的

高等教育課程においては専攻する学部や学科が分かれているので、入学にあたってはそれぞれの専門分野に必要な科目の成績や学習の達成度が確認されている。また、入学後も学生はそれぞれの専門分野に関する知識や技術を学び習得していることから、GATBで測定される適性能に関してもそれぞれの専門分野に関連する能力の水準はそれ以外の分野に比べて高くなっていることが予想される。

そこで、本研究で扱った高等教育課程に在学する学生のデータのうち、所属する専門学科がわかっている専門学校生のデータを用いて専門分野とGATBの適性能の得点との関連を検討することとした。なお、専門学校生の専門分野とGATBの適性能との関連については、第5章で示した通り、雇用職業総合研究所(1983)による速記科、秘書科、情報処理秘書科、流通ビジネス科のデータがある。このデータは最も少ない流通ビジネス科が22名、その他も130名~160名のデータ数であるので参考程度に傾向をみると、100名以上のデータがある速記科、秘書科、情報処理秘書科については紙筆検査で得られた7つの適性能得点の水準において、ある程度の高低がみられた。言語(V)が最も高く、書記(Q)が2番目に高いという点はどの学科にも共通している。また、知的(G)については速記科が他の2つよりもやや高め、情報処理秘書科では書記(Q)と同レベルで共応(K)が高くなっていること、数理(N)についても他の2つよりも高めであることなどの特徴が示されている。

第5章でみたように本研究で扱っている専門学校生のデータは10,643名であるが、このうち学科の情報があるのは5,441名である。提供されたデータにおいて学科に関してコード化されていた区分は、①商業・情報系、②工業系、③ファッション・ブライダル系、④福祉・看護系という4種類のコードであった。まずは、各学科についてデータの構成を細かくみていったところ、学生の男女の割合や学年の構成比も異なることがわかり、専門学校生に関する限定的なデータであることは否めないが、GATBの結果と学科との関連を検討する上での一資料としてまとめておきたいと考えた。なお、本章においては、年度ごとのGATB得点の推移についてはデータ数が細分化されているため実施しておらず、すべて年度をこみにした上での集計となっている。

### 6-2 方法

#### (1) 対象者の属性

専門学校生の学科と男女人数の内訳を図表6-1に示す。データの総数でみると、ファッション・ブライダル系が最も多く(2,530名)、次が商業・情報系(2,025名)、3番目が福祉・

看護系（644名）、4番目が工業系（242名）となっている。男子では、商業・情報系が最も多く、次がファッション・ブライダル系、福祉・看護系、工業系であった。女子では、最も多かったのはファッション・ブライダル系、次が福祉・看護系、商業・情報系、工業系であった。男女の比率としては、学科を合計してみると男子は3,209名、女子は2,232名で、割合で見ると58.98%と41.02%となり、男子の方がやや多めとなっている。

各学科について学年別の内訳をいれたものが図表6-2である。全体としてどの学科も1年生の割合が多い。工業系は97.11%が1年生であった。また、ファッション・ブライダル系と商業・情報系も1年生の割合が8割以上である。福祉・看護系のみ2年生以上の割合が若干多めで1年生の割合は7割弱であった。

図表 6-1 専門学校生の学科別にみた男女構成人数

学科	商業・情報	工業	ファッション・ブライダル	福祉・看護	計
男子 人数	1808	214	819	368	3209
男子 %	(56.34)	(6.67)	(25.52)	(11.47)	(100.00)
女子 人数	217	28	1711	276	2232
女子 %	(9.72)	(1.25)	(76.66)	(12.37)	(100.00)
計 人数	2025	242	2530	644	5441
計 %	(37.22)	(4.45)	(46.50)	(11.84)	(100.00)

図表 6-2 専門学校生の専門分野別にみた男女・学年別構成人数

商業・情報	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	ファッション・ブライダル	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
男子(人数)	1451	299	58	0	1808	男子(人数)	699	73	47	0	819
(合計に占める割合%)	(71.65)	(14.77)	(2.86)	(0.00)	(89.28)	(合計に占める割合%)	(85.35)	(8.91)	(5.74)	(0.00)	(32.37)
女子(人数)	183	27	7	0	217	女子(人数)	1478	146	87	0	1711
(合計に占める割合%)	(84.33)	(12.44)	(3.23)	(0.00)	(10.72)	(合計に占める割合%)	(86.38)	(8.53)	(5.08)	(0.00)	(67.63)
合計(人数)	1634	326	65	0	2025	合計(人数)	2177	219	134	0	2530
(合計に占める割合%)	(80.69)	(16.10)	(3.21)	(0.00)	(100.00)	(合計に占める割合%)	(86.05)	(8.66)	(5.30)	(0.00)	(100.00)
工業	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	福祉・看護	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
男子(人数)	207	7	0	0	214	男子(人数)	273	94	1	0	368
(合計に占める割合%)	(96.73)	(3.27)	(0.00)	(0.00)	(88.43)	(合計に占める割合%)	(74.18)	(25.54)	(0.27)	(0.00)	(57.14)
女子(人数)	28	0	0	0	28	女子(人数)	153	99	23	1	276
(合計に占める割合%)	(11.57)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(11.57)	(合計に占める割合%)	(55.43)	(35.87)	(8.33)	(0.36)	(42.86)
合計(人数)	235	7	0	0	242	合計(人数)	426	193	24	1	644
(合計に占める割合%)	(97.11)	(2.89)	(0.00)	(0.00)	(100.00)	(合計に占める割合%)	(66.15)	(29.97)	(3.73)	(0.16)	(100.00)

## (2) 分析の視点

第6章では学科別にみたGATBの下位検査（紙筆検査のみ）の粗点の平均値と適性能得点の平均値が各学科でどのような水準となるのかを検討したい。

なお、既にみてきたように能力の水準に関しては男女差や学年差の影響が考えられる。そこで、学科別にみると人数が限られてしまうが、平均値の算出にあたっては男女のグループは分けて算出した。また、学年としては学年の影響が入らないように1年生に限定して得点を算出することとした。

### 6-3 結果

#### (1) 男女別にみた下位検査の平均値の学科に関する検討

1年生に限定して男女別、学科別に下位検査の粗点の平均値と標準偏差を算出した結果を図表6-3に示す。図表6-3の平均値をグラフにしたものが図表6-4である。下位検査の粗点はそれぞれ最大値が異なるので検査間での比較はできず、学科間での比較のみとなる。図表6-3では、下位検査の記載順はGATBでの実施順にあわせているが、以下では適性能を中心としてそれぞれに関連する下位検査について学科との関連をみていく。

図表6-3 男女別、学科別にみた下位検査の粗点の平均値 (mean) と標準偏差 (SD)

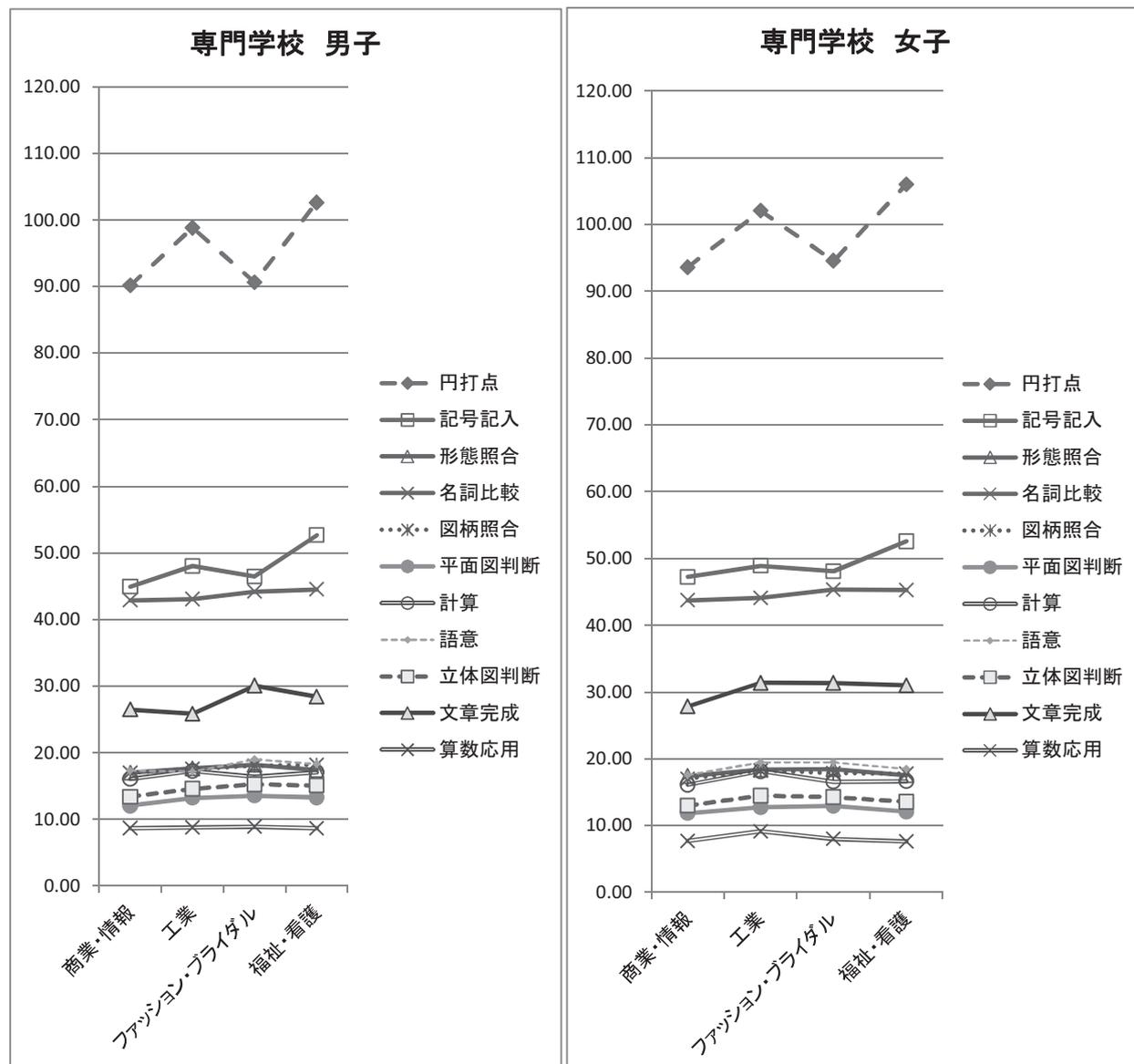
#### 男子

下位検査	商業・情報		工業		ファッション・ブライダル		福祉・看護	
	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
円打点	90.17	(21.56)	98.81	(17.10)	90.63	(14.57)	102.62	(19.26)
記号記入	44.94	(8.52)	48.07	(7.11)	46.48	(6.18)	52.67	(7.85)
形態照合	17.01	(3.96)	17.66	(3.19)	18.18	(3.40)	17.42	(3.77)
名詞比較	42.90	(7.46)	43.07	(5.71)	44.22	(6.31)	44.53	(6.26)
図柄照合	16.98	(2.79)	17.55	(2.32)	18.05	(2.45)	18.19	(2.28)
平面図判断	12.05	(3.29)	13.25	(2.96)	13.58	(2.71)	13.30	(2.89)
計算	16.07	(4.75)	17.25	(3.67)	16.40	(3.67)	17.08	(3.96)
語意	17.31	(4.85)	17.16	(3.66)	19.01	(4.38)	18.31	(4.75)
立体図判断	13.42	(3.38)	14.60	(2.65)	15.26	(2.98)	15.07	(2.98)
文章完成	26.49	(7.70)	25.86	(6.11)	30.08	(7.09)	28.41	(6.87)
算数応用	8.68	(3.04)	8.79	(2.14)	8.90	(2.59)	8.66	(2.72)

#### 女子

下位検査	商業・情報		工業		ファッション・ブライダル		福祉・看護	
	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
円打点	93.60	(18.59)	102.07	(14.49)	94.57	(14.47)	106.02	(19.68)
記号記入	47.25	(7.19)	48.89	(6.94)	48.08	(5.99)	52.56	(7.02)
形態照合	17.40	(3.42)	18.39	(3.19)	18.45	(3.36)	17.52	(3.82)
名詞比較	43.73	(5.90)	44.07	(4.54)	45.33	(5.95)	45.26	(6.04)
図柄照合	17.02	(2.43)	18.25	(2.08)	17.85	(2.21)	17.76	(2.33)
平面図判断	11.86	(2.69)	12.75	(2.65)	12.95	(2.69)	12.09	(2.68)
計算	16.10	(3.61)	18.14	(3.09)	16.57	(3.47)	16.64	(4.04)
語意	17.56	(4.04)	19.46	(5.24)	19.47	(4.26)	18.48	(4.83)
立体図判断	12.98	(2.84)	14.46	(2.01)	14.26	(2.73)	13.56	(2.70)
文章完成	27.86	(6.35)	31.36	(6.28)	31.35	(6.97)	31.00	(6.78)
算数応用	7.69	(2.30)	9.14	(2.07)	8.01	(2.37)	7.61	(2.18)

図表 6-4 男女別にみた下位検査の粗点に関する学科での比較



①適性能の共応 (K) に関連する下位検査

共応 (K) に関連するものとして、円打点検査と記号記入検査があるが、男子の結果をみると、円打点検査も記号記入検査も福祉・看護系が最も高く次が工業系であった。商業・情報系が最も低かった。これは女子でも同じ結果となった。

②言語 (V) に関連する下位検査

言語 (V) に関連する検査としては、語意と文章完成があるが、男子の結果では、どちらの検査でも学科による得点の高さは同じ傾向を示した。ファッション・ブライダル系が最も高く、福祉・看護系が次に高く、工業系が最も低かった。

女子の結果では、語意検査をみると、福祉・看護系が最も高く、次がファッション・ブライダル系と工業系でこれはほぼ同程度である。商業・情報系が最も低い。文章完成は工業系、ファッション・ブライダル系、福祉・看護系がほぼ同程度である。商業・情報系がそれよりも低くなっている。男子と女子で傾向が違っている。

#### ③数理（N）に関連する下位検査

数理（N）に関連する検査には、計算と算数応用があるが、まず男子の結果をみると、計算については工業系が最も高く、福祉・看護系が2番目に高く、商業・情報系が最も低かった。算数応用はファッション・ブライダル系が最も高く、工業系が2番目に高かった。計算も算数応用も数理（N）に関連する検査であるが、単純な計算と文章問題を解く算数応用では傾向が異なっている。

女子については、計算では工業系が最も高く、福祉・看護系、ファッション・ブライダル系、商業・情報系となった。これは男子と同じ結果であった。他方、算数応用では工業系が最も高く、ファッション・ブライダル系、商業・情報系で、福祉・看護系が最も低かった。

#### ④書記（Q）に関連する下位検査

書記（Q）に関連する検査である名詞比較をみると、男子では、福祉・看護系が最も高く、それと同程度にファッション・ブライダル系が高かった。女子では、ファッション・ブライダル系が最も高く、次が福祉・看護系となったがこの2つにはほとんど差がない。それよりやや低くなったのが工業系で、最後が商業・情報系となった。女子のファッション・ブライダル系と福祉・看護系はほぼ同程度なので、男子と傾向は似ているといえる。

#### ⑤空間（S）に関連する下位検査

空間（S）に関連する検査のうち、平面図判断について男子の結果をみると、ファッション・ブライダル系が他よりもやや高く、福祉・看護系と工業系が同程度で、商業・情報系が若干低くなっていた。また、立体図判断でも同じような傾向がみられた。

女子の平面図判断の結果をみると、ファッション・ブライダル系、工業系がやや高くなっている。その次が福祉・看護系、商業・情報系となっている。立体図判断を見ると、工業系が最も高く、次がファッション・ブライダル系となっている。福祉・看護系と商業・情報系はそれよりも低めである。

#### ⑥形態（P）に関連する下位検査

形態（P）に関連する下位検査のうち、男子に関して形態照合をみると、ファッション・ブライダル系が最も高かった。次が工業系、福祉・看護系が同程度で商業・情報系がやや低い。図柄照合では、福祉・看護系が最も高く、次がファッション・ブライダル系、工業系と

なり、商業・情報系が最も低くなった。

女子については、形態照合はファッション・ブライダル系が最も高く、次が工業系である。福祉・看護系と商業・情報系はそれよりもやや低い。図柄照合をみると、工業系が最も高く、次がファッション・ブライダル系、福祉・看護系、商業・情報系となった。

以上、適性能に関連させて下位検査に関して男女別に学科の得点をみた。知的（G）については、下位検査の文章完成、算数応用、平面図判断を用いるが、他の適性能で記述しているため記載していない。

得点そのものをみると学科間での得点の差はそれほど大きなものではないが、わずかではあっても傾向として理系と文系の違いが確認されている部分もある。例えば、運動機能をはかる円打点検査や記号記入検査では、福祉・看護系や工業系の得点が高めとなっていたり、計算検査では男女ともに工業系が最も高いなどである。工業系の女子は 28 名と少ない人数であったが、算数応用や立体図判断の得点も学科の中で最も高く、理系の特徴がよく示されているようであった。

## （2）男女別にみた適性能得点の平均値の学科に関する検討

男女別、学科別に適性能得点の平均値と標準偏差を算出した結果を図表 6-5 に示す。適性能得点は下位検査を用いて同じ規準で換算された得点であるため、相互に比較することが可能である。学科別に適性能得点をグラフにしたものが図表 6-6 である。まず、学科ごとに 7 つの適性能の水準をみた後、適性能ごとに学科間の比較を行う。

図表 6-5 男女別、学科別にみた適性能得点の平均値（mean）と標準偏差（SD）

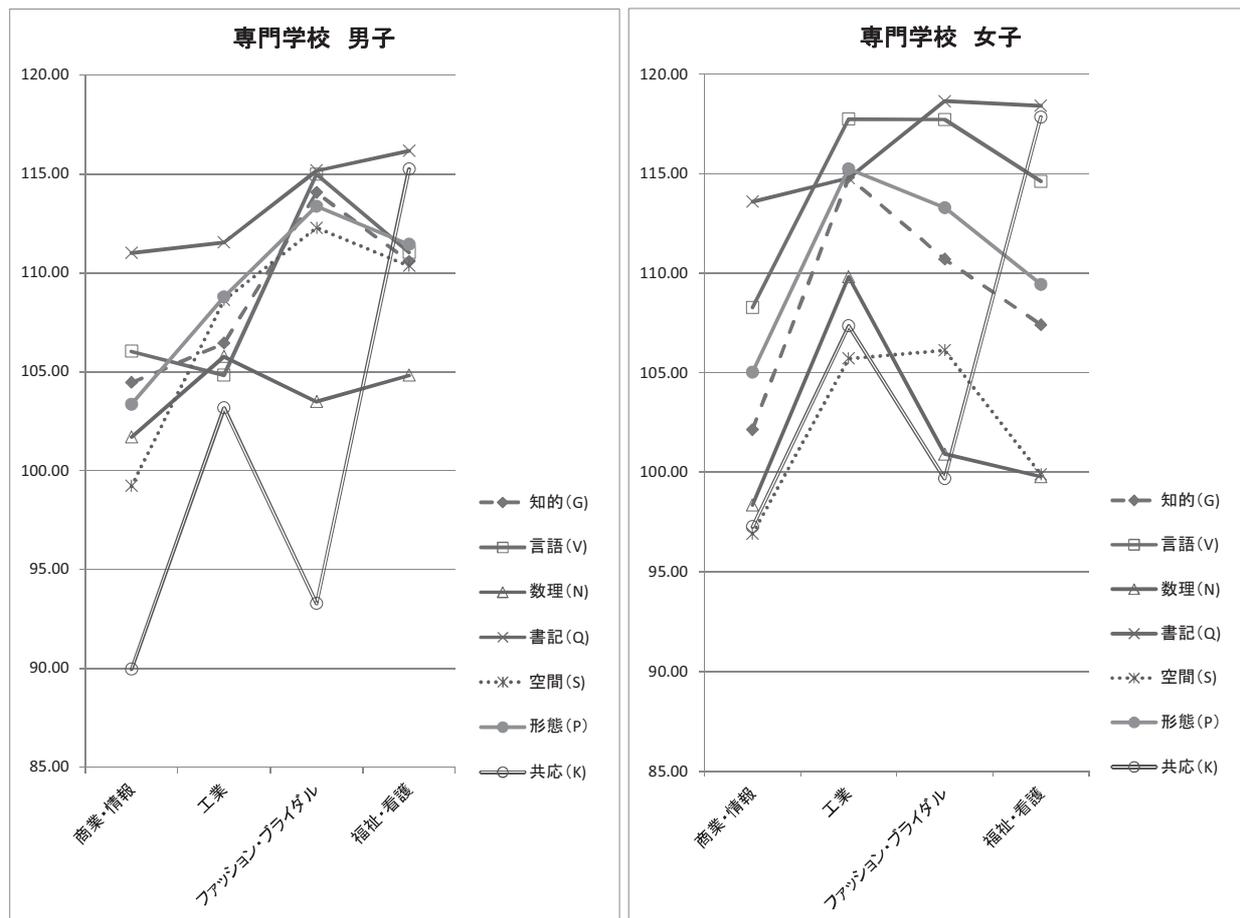
### 男子

下位検査	商業・情報		工業		ファッション・ブライダル		福祉・看護	
	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
知的(G)	104.44	(22.87)	106.44	(15.14)	114.06	(18.85)	110.57	(19.13)
言語(V)	106.03	(20.84)	104.82	(15.50)	114.98	(18.78)	111.03	(19.43)
数理(N)	101.70	(22.62)	105.76	(15.83)	103.49	(17.58)	104.81	(18.26)
書記(Q)	111.00	(23.48)	111.53	(18.02)	115.16	(19.90)	116.16	(19.72)
空間(S)	99.21	(23.91)	108.62	(19.39)	112.28	(19.68)	110.34	(20.32)
形態(P)	103.36	(25.19)	108.79	(19.03)	113.37	(20.75)	111.44	(21.14)
共応(K)	89.96	(31.29)	103.16	(25.31)	93.28	(21.12)	115.25	(27.72)

### 女子

下位検査	商業・情報		工業		ファッション・ブライダル		福祉・看護	
	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
知的(G)	102.15	(17.42)	114.82	(11.66)	110.71	(18.27)	107.41	(17.48)
言語(V)	108.28	(17.02)	117.75	(17.96)	117.73	(18.35)	114.62	(19.52)
数理(N)	98.37	(16.66)	109.82	(13.33)	100.92	(16.38)	99.78	(17.73)
書記(Q)	113.60	(18.60)	114.79	(14.41)	118.65	(18.78)	118.42	(19.04)
空間(S)	96.92	(19.53)	105.71	(16.68)	106.13	(18.70)	99.90	(18.42)
形態(P)	105.03	(20.77)	115.25	(17.68)	113.30	(19.51)	109.45	(21.16)
共応(K)	97.26	(26.86)	107.36	(23.66)	99.69	(21.55)	117.85	(27.68)

図表 6-6 男女別にみた適性能得点に関する学科での比較



## 1) 学科別の適性能の特徴

### ①商業・情報系

男子については、最も高いのが書記 (Q) で 110 以上となった。その後は言語 (V)、知的 (G)、形態 (P)、数理 (N)、空間 (S) の順となっているが、得点の高さは概ね 100 から 105 前後にまとまっている。最も低いのが共応 (K) でこれは 90 程度であり、他の学科と比較しても最も低くなった。

女子については、男子と同じく書記 (Q) が最も高く 110 以上となった。続いて言語 (V)、形態 (P)、知的 (G) となっている。ここまでは 100 以上であるが、数理 (N)、共応 (K)、空間 (S) が低く 97~98 程度でわずかに 100 を下回った。男女ともに書記 (Q) が他の適性能に比べて高い得点となっていることが特徴である。

### ②工業系

男子については最も高いのが書記 (Q) で 110 以上となった。また、形態 (P) と空間 (S) が同程度に高く 110 に近い。次が知的 (G)、数理 (N)、言語 (V)、共応 (K) となってい

るがこれらは 103～106 の間でそれほど差がない。

女子については言語 (V) が最も高く、書記 (Q)、形態 (P)、知的 (G) の 4 つが高い。これらはすべて 110 以上である。数理 (N)、共応 (K)、空間 (S) は 105～110 の間で最初の 4 つの適性能と比較すると得点はやや低くなるが他の学科と比べると水準としては相対的に高くなっている。

### ③ファッション・ブライダル系

男子については書記 (Q)、言語 (V)、知的 (G)、形態 (P)、空間 (S) がどれも 110 以上となり、適性能間の値はほぼ同じであった。相対的に低かったのは数理 (N) で 103 程度、最も低かったのが共応 (K) で 93 となり 100 を下回った。

女子をみると男子よりも各適性能の得点がばらついている。書記 (Q) と言語 (V) は同程度に高く、その次が形態 (P)、知的 (G) であった。この 4 つは 110 以上であった。空間 (S) は 106、数理 (N) と共応 (K) は 100 程度で最初の 4 つの能力よりやや低くなった。

### ④福祉・看護系

男子については書記 (Q) と共応 (K) が 115 以上で最も高い。他の学科と比べて共応 (K) の高さが特徴である。そのほか、形態 (P)、言語 (V)、知的 (G)、空間 (S) は同程度で 110 程度となっており、最も低かったのは数理 (N) となったが 104 であり平均的な水準はみたしていた。

女子については男子よりも得点がばらついていた。書記 (Q) と共応 (K) が 115 以上で高い点は同じであった。次に高かったのは言語 (V) で 115 程度であった。さらに形態 (P)、知的 (G) が 110 弱となった。最も低かったのは数理 (N) と空間 (S) で 100 程度となった。

どの学科をみても、書記 (Q) は高めの値となっていた。言語 (V) や形態 (P) についても高めであることが多かった。また、数理 (N) や共応 (K) は全体として低めの数字となっているが、学科による違いはあり、共応 (K) は福祉・看護系では他の適性能の得点と比べても高く、数理 (N) は学科間で比較すると男女ともに工業系が最も高くなった。

## 2) 適性能別の学科間の得点の比較

次に適性能ごとに平均値を学科間で比較した。

### ①知的 (G) の得点について

男子の知的 (G) に関して最も平均値が高いのはファッション・ブライダル系である。次が福祉・看護系で、工業系、商業・情報系となっている。

女子では工業系が最も高く、ファッション・ブライダル系、福祉・看護系、商業・情報系となった。

## ②言語 (V) の得点について

男子では、ファッション・ブライダル系と福祉・看護系が 110 以上となっている。商業・情報系が 106 程度、工業系が 105 程度となった。女子では、工業系とファッション・ブライダル系が 117 以上で高く、次が福祉・看護で 115 程度、最後が商業・情報系となった。工業系における言語 (V) は男女で傾向に違いがあり、男子では学科全体の中で最も低かったが女子では最も高かった。女子は言語系の能力が男子に比べて高いので、工業系であってもその特徴は保たれるようであった。

## ③数理 (N) の得点について

男子では工業系が最も高く、福祉・看護系、ファッション・ブライダル系、商業・情報系となった。数理 (N) の得点は他の適性能に比べてどの学科においても全般に低めとなっている。女子でも同じ傾向であるが、最も高かったのは工業系で、次がファッション・ブライダル系となった。福祉・看護系と商業・情報系は 100 程度で低くなった。数理 (N) に関しては男女ともに工業系が他の学科よりも高くなっている。

## ④書記 (Q) の得点について

男子の得点をみると、最も高いのが福祉・看護系であるがファッション・ブライダル系も同水準で 115 以上である。工業と商業・情報系はそれよりもやや低くなっているが 111 程度で、書記 (Q) についてはどの学科も高くなっている。女子については、ファッション・ブライダル系と福祉・看護系が 118 程度となり同水準で高い。そのほかの工業系、商業・情報系も 110 を超えており、高くなっている。

## ⑤空間 (S) の得点について

男子の得点では、ファッション・ブライダル系と福祉・看護系が 110 以上で高くなっている。工業系と商業・情報系はそれよりもやや低い。女子についてはファッション・ブライダル系と工業系が 105 程度である。福祉・看護系と商業・情報系は 100 を少し下回る程度で相対的にもやや低めとなった。

## ⑥形態 (P) の得点について

男子をみると、ファッション・ブライダル系が最も高く、次が福祉・看護系であった。これらは 110 を超えている。工業系、商業・情報系も 100 の水準は上回った。女子については、工業系が 115 以上で最も高く、ファッション・ブライダル系も 113 で 110 を超えた。福祉・看護系はそれをやや下回り、商業・情報系は 105 程度となった。形態 (P) についても他の適性能と比べて全体に得点が高めとなっている。

#### ⑦共応 (K) の得点について

共応 (K) の得点は学科を問わずに低めであるが、その中で男女ともに福祉・看護系は 115 を超えて高くなっている。男子の場合、次に高いのは工業系となるがこれは 103 程度で、ファッション・ブライダル系と商業・情報系は 100 よりも下回った。女子については、2 番目に高かったのは男子と同じく工業系であり 107 となった。それ以外のファッション・ブライダル系、商業・情報系は 100 より下回ったが、男子よりは高めの得点だった。

### 6-4 まとめ

本章では、GATB の下位検査や適性能得点に関して学科の特徴がどの程度得点の水準に反映されるのかについて、専門学校データを整理して検討した。扱っているデータに関して学科、学年、男女の構成比が異なるという制約があるので、示された結果については専門学校生における学科と適性との関連として一般化して論ずることはできないが、得られた結果の範囲で示唆されているいくつかの特徴をまとめておきたい。

#### (1) 学科ごとの適性能の特徴について

今回のデータで専門学校の学科を分類しているコードは、商業・情報系、工業系、ファッション・ブライダル系、福祉・看護系であった。このコードがどのような内容の学校を含んでいるかに関する具体的な情報はないが、大まかに商業・情報系は事務の分野、工業系は技術の分野、ファッション・ブライダル系は創作や企画の分野、福祉・看護系は医療福祉の分野に関する職種のイメージで関連づけて考えてみたい。

適性能の得点の水準に関して学科に関係なく全体としてみていくと、大学生や短期大学生のデータで見られた結果と同様に、書記 (Q)、言語 (V)、形態 (P) の得点は全般に高めであるという特徴があった。

他方、学科別にみていくと、商業・情報系は主に事務的な作業に従事する職業への志向と関連すると考えられるが、男子も女子も他の適性能に比べて、書類を見比べるような能力に関連する書記 (Q) が他の適性能よりも高めになっていた。また、工業系については、学科を問わず数理 (N) の得点が低い中で、男女ともに他の学科と比べると最も得点が高くなっている。手作業に関連する共応 (K) についても福祉・看護系に続いて平均以上の得点となっている。ファッション・ブライダル系については、男子と女子で適性能の水準の傾向が異なるので解釈が難しいが、男女ともに他の学科と比較して空間 (S) と形態 (P) が高めとなっている。これらは適性能の中で知覚機能に関連する能力であり、他の学科と比較した時のファッション・ブライダル系の学生の特徴は知覚機能に関連する能力が相対的に高いということがいえるかもしれない。福祉・看護系の特徴は男女ともにみられる共応 (K) の得点の高さである。共応 (K) は円打点検査や記号記入検査のように運動機能に関連する能力であ

り、眼と手または指を共応させて素早く正確に作業することができる能力を示す。第5章でもみたように大学生、短期大学生も含めて共応（K）の得点が適性能の中では全体に低めの水準となっている中で、福祉・看護系の学生の得点に表れている共応（K）の得点の高さはこの分野に関連する大きな特徴であると考えられる。

なお、本章での分析は学年の影響を考慮して対象を1年生に限定しているが、専門的な領域での学習の蓄積が1年間に満たない学生であってもこのような特徴が見られるということは、専門学校への入学の過程で、ある程度、能力面での適性が考慮されて学科が選択されていることがうかがわれる。

## （2）学科選択や職業選択に向けて GATB の果たす役割について

専門学校の学科と GATB で測定される適性能に関して、部分的かつ限定的ではあるが、各学科に関連する能力面での特徴がいくつか見いだされたことは、高等学校での進路指導や相談機関での職業相談における GATB の活用の有効性を示していると考えられる。将来、やりたい職業がないとか、どのような職業に就いたらよいかわからないという若者は多いといわれているが、GATB は個人の能力面での特徴を正確に捉える検査であるため、その特徴を活かせる仕事や進学先を選ぶ時のヒントとして結果を活用することができるだろう。

また、今回の専門学校の学科情報は4種類で限定されたものであるが、もっと様々な学科に所属する学生のデータを集め、職業能力面での特徴やそれぞれのレベルを明らかにすることによって、専門学校への選択を考えている高校生に GATB を実施し、その結果を用いて進路指導や職業相談を行うときに役立てることができる資料を提供することができるのではないだろうか。この点については今後の課題としたい。

## 参考文献

雇用職業総合研究所 1983 「1983 改訂新版（進路指導用）労働省編一般職業適性検査第一（GATB-I）関係資料」 雇用職業総合研究所